

2020年  
教室だより  
3月号



公文式  
本市場教室・横割教室  
ゆきこくもん 検索

<http://www.yukiko-kumon.com>

公文式本市場教室 火3時~7時 木2時30分~6時30分

TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3時~7時 TEL 61-8891(福島方)

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

“くもんの先輩”からのメッセージ

3月は現在の学年が修了する月ですが、ご存知のように公文式は同学年の生徒さんが一斉に進級するわけではありません。いわゆる卒業というものもありません。お子さま方は、現在の学力に応じて、それぞれの目標に向かって教材学習に取り組んでくれています。

そして、ぜひO(オ一)教材、「最終教材」を目指してほしいと願っています。公文式最終教材修了生は全国にたくさんおられますが、みなさんが異口同音に、公文式の学習を通して数学力や読解力といった学力とともに、「自学自習力」や「失敗を恐れずチャレンジする力」などが、大学のより高度な研究に必要な力として、また社会に出てから役に立つ力として身についたと語ってくれます。目標達成のために必要なことは、決してあきらめないこと、挑戦し続けることである、と彼らは公文式学習を通してこのことを実体験しています。言葉の上だけでなく、「やればできる」という確信、ゆるぎない自信を持っています。これは充実した人生を送る上で、かけがえのない財産となります。

お子さまが自学自習で最終教材に向かって進んでいく、そのお手伝いを全力でさせていただきたいと、スタッフ一同心から願っております。

公文式の創始者・公文 公(くもんとおる)先生の言葉より

“「ちょうど」の学習”

公文式は、まず子どものやる気を引き出し、子ども自身がおもしろいと感じながら続けていける学習内容を渡していきます。そのために、学年という枠をはずし、それぞれの子に「ちょうど」の学習をさせるのです。例えば、九九を5回の反復練習でマスターできる子もいれば、10回以上の練習が必要な子もいます。能力には個人差があるからです。一人ひとりがそうした能力の差に応じた学習を積み重ねていくことを、公文式はなによりも大切と考えます。子どもは、自分がスラスラできることには喜んで取り組みます。そして「もっとやりたい」「次に進みたい」という意欲をもち始めます。そういう意欲をもち、学習の成果を実感できるようになった子どもは、さらに「ちょうど」の学習内容を継続していくことで必ず伸びていきます。他人と優劣を競わせるのではなく今日はできなかったことを明日はできるように、個人別に能力を引き出していく。そのために不可欠なのが「ちょうど」の学習なのです。

2020年 3月の学習日

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
日	月	火	水	木	金	土
1	△2	3	△4	5	6	7
8	△9	10	△11	12	13	14
15	△16	17	△18	19	20 <small>春分の日</small>	21
22	△23	24	△25	26	27	28
29	△30	31				

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

1月分の会費引き落としは2月28日(金)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願ひます。

\*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

## \*ゆき子の一言コラム

読解力どう伸ばす。

経済協力開発機構(OECD)がこのほど公表した2018年学習到達度調査(PISA)の結果で、日本の子どもの読解力は前回の15年より点数、順位ともに下落しました。文部科学省には「単純な学力低下ではない」との見方もあるが、文章を正確に理解し、答えを導き出す力が不足しているとの指摘は以前からありました。全ての教科に不可欠な能力を伸ばすためには何が必要なのか。

「数学の本質は計算ではなく、問題文を読解することにあります」。今年11月、中学生らを対象に東京都内で聞かれた数学の模擬授業。人工知能(AI)や読解力の研究で知られる国立情報学研究所の新井紀子教授が訴え掛けた。

授業は偶数と奇数の定義を使い、既に正しいとされていることを証明し、再確認する内容。

数学の知識があっても、問われている意味が分からなければ本当の学力とは言えない。

新井教授は読解力の重要性を「全科目をより良く学ぶために不可欠な汎用的スキル」と説明します。

「非科学的な指導が多かったのではないかと、日本の国語教育を分析する新井教授。

教える側が「日本語だから普通に読めば分かる」との認識のまま授業が進み、文節や句読点の使い方など文章の構造を論理的に教えていないと指摘。そのため、文章を感覚で捉える癖が付き、理解できなくなっているとみている。03年と06年の調査で、日本がトップレベルからOECDの平均レベルまで成績を下げた「PISAショック」以降、文科省は脱ゆとり教育を加速させました。全国学力テストを復活させるなどの施策を次々と打ち出した当時と比べ、今回は「早急に対策をする状況にない」(幹部)と余裕の構えです。

背景にあるのは、来年度以降、小学校を皮切りに順次実施される新学習指導要領の存在。小学校の各教科で言語能力の育成を新たに掲げ、国語では「語彙を豊かにする」と明記。高校でも実用的な文章を読み、論理的に書く力を養う科目「論理国語」を新設するなど、読解力向上を重視した内容です。文科省幹部は「これまでの対策に加え、新指導要領の内容を確実に進めることが重要だ。PISAの結果に右往左往する必要はない」と言い切る。冷静な反応の一因には、PISAの在り方を疑問視する声の存在もある。

言語学者のノーム・チョムスキー氏ら世界的に著名な学者らが14年、偏った尺度で教育を測定していると批判する文書をインターネット上に公開し、賛同が広がった。

順位の上昇に躍起となっている参加国・地域もあるとされ、文科省関係者は「大都市部の優秀な子どもだけに受けさせているという話も聞く。そうした状況で日本の位置付けに惑わされる必要はない」と話す。それでも新指導要領の検討過程では、小学校入学段階で既に語彙量の差が開いていると指摘された。各種調査の結果だけでなく、学校の現場でも「文章を読めない子どもが増えている」との実感も広がっている。新井教授は言う。「教科書が本当に読めているのかを見てつまずきを確認したり、文法の誤りを修正したりする論理的な指導が大切だ」

## 公文がどう役立つのかについては、

大阪大学の松繁寿和教授との共同研究で検証しており、その内容は学会でも発表されています。

- ①個人別にすらすらと学習していることで処理能力がついていきます。
- ②作業できる量とスピードが向上することは、将来社会に出たときに、多くの作業を集中して着実に処理する姿勢であるハード・ワーキングにつながります。
- ③例題やヒントをもとにして自分で考え、類推する力を養うことは、物事を論理的に考えるロジカル・シンキングの姿勢につながっていきます。
- ④間違えたところを100点になるまで修正していくことで身につけられる修正力は、あきらめずに手を尽くして目標を達成しようとするコミットメントに結びついていきます。

これらはすべて社会に出て必要とされる力であり、KUMONではこうした力を身につけられるということが証明されています。このことをもっと実感できるように取り組んでいきたいと思っています。

- ①はきものはきちんとそろえよう！
- ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！
- ③もちものには なまえ をかきましょう！
- ④でんわをかりたら かならず でんわ代10えんいれてください！